

東京ビジネスクリニック通信

▶ 带状疱疹ワクチン（シングリックス）について ◀

先月号では、水痘（みずぼうそう）についてご紹介しました。

今月号では、罹患確率が50歳から増加し、80歳までに3人に1人が発症すると言われている、带状疱疹についてご紹介します。

带状疱疹とはどんな病気？

带状疱疹は、水痘・带状疱疹ウイルス（Varicella Zoster）と呼ばれるウイルスに感染することで引き起こされます。水痘・带状疱疹ウイルスは水疱瘡（みずぼうそう＝水痘）の原因となるウイルスです。

子どもの頃に水ぼうそうにかかると、症状は治ってもウイルスは完全に体内からなくなり、神経節（神経繊維の節目）の中に潜んで休眠状態で残ります。大人になり、疲れやストレス、体力の低下や病気などで免疫力が落ちた時に、そのウイルスが目覚まし、带状疱疹として発症するのです。带状疱疹が起こる確率は50歳から増加し、80歳までに3人に1人が発症すると言われています。

なお、水ぼうそうは成人でもかかることはあり、無症状での感染も含めると、日本人は国民のほぼ全員が生涯で罹患する（もしくは抗体価を獲得する）ウイルスだとされています。

带状疱疹の症状

带状疱疹の主な症状は、小さな水ぶくれ（水疱：すいほう）と発疹（ほっしん）です。水疱ができる2～3日前から、肋骨に沿った神経（肋間神経）や顔の神経（三叉神経）に沿ってかゆみや違和感、ピリピリとした痛みなどが現れます。そこに水疱や発疹ができ、1週間ほどで破れて皮膚がただれたようになります。時には、発熱や頭痛などの症状が同時に起こることがあります。およそ20%くらいの方は、水疱や発疹などの症状が治った後に痛みが残ります。これを带状疱疹後神経痛と呼びます。痛みは個人差がありますが、眠れないほどの痛みが残る方もいます。

带状疱疹ワクチンとは？

带状疱疹ワクチンは、带状疱疹を予防するためのワクチンです。带状疱疹ワクチンは、带状疱疹ウイルスの弱毒化したウイルスを使って作られています。ワクチンを接種することで、免疫系がこのウイルスに対する防御力を身につけます。これにより、带状疱疹のリスクを減らすことができます。

带状疱疹ワクチンは、50歳以上の成人に推奨されますが、49歳以下でも接種は可能です（日本では未承認）。免疫力が低下するような持病がある18歳以上の方などの場合も、接種が勧められることがあります。

ワクチン接種後、带状疱疹ワクチンは100%の効果を保証するものではありませんが、带状疱疹にかかるリスクが大幅に減少するデータが得られています。また仮に带状疱疹を発症してしまっても、ワクチンを接種していると症状が軽く済むこと、また带状疱疹後神経痛の発症も少なくなることが報告されています。

シングリックス（Shingrix）とはどんなワクチン？

シングリックスは、日本では2020年1月より使用できるようになった新しい带状疱疹ワクチンです。生ワクチンではないので、免疫機能が低下した人（造血幹細胞移植を受けた方、ステロイド剤や免疫抑制剤を内服中の方など）でも接種が可能です。

带状疱疹の予防効果は、50歳以上の方で97.2%、70歳以上の方で89.8%と報告されています。従来のワクチンの予防効果は51.3%ですので、比べてみても非常に効果が高いことがわかります。これらの効果は10年以上持続することが分かっています。また、带状疱疹後神経痛に対する予防効果も88.8%と非常に高いことが特徴です。

シングリックスは、2ヶ月あけて2回（最大6ヶ月以内）の接種が必要となります。

日本においては、带状疱疹ワクチンは、定期接種の対象ではなく、自由診療として扱われています。そのため、費用は医療機関によって異なります。一般的に、シングリックス1回あたりの費用は、約2万円から3万円程度です。当院では1回19,500円（税込21,450円）となっています。一見高額のように見えますが、带状疱疹ワクチンの予防接種に補助金や助成金を出している自治体が多く、実際の自己負担はこれよりも軽くなるのがほとんどです。例えば東京都千代田区に住民登録のある50歳以上の方は、シングリックスの接種に対し、1回当たり11,000円の費用補助を受けることができます。助成の条件は自治体によって異なりますので、受診の前にお住まいの自治体にお問い合わせください。